

令和 5 年 6 月 2 日現在

機関番号：32665

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2022

課題番号：16K01693

研究課題名(和文) トップ選手の熟達体験とエキスパート指導者の実践知に基づくコーチングラダーの開発

研究課題名(英文) Development of a coaching grader based on the proficient experience of top players and the practical knowledge of expert coaches

研究代表者

北村 勝朗 (KITAMURA, Katsuro)

日本大学・理工学部・教授

研究者番号：50195286

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、指導熟達の段階に応じたステップを「コーチングラダー」と位置づけ、いわゆる実践知のはしごによって指導者の現在の臨床実践能力を確認し、段階的な指導力養成支援システムの構築を試みた。研究成果として、コーチング熟達過程のモデル化がなされた。すなわち、コーチング・ラダーは、省察性を伴う指導観の形成契機としての【指導者視点形成】、心理的関係性の構築と常態化としての【指導者作用力形成】、およびメタな視点を有した実践知の再構成としての【指導実践知獲得】の3つの要素によって示される熟達化過程への影響要因が看取され、指導熟達段階を経る中で洗練化され実践知の内実が高められていく点が明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義として、スポーツ指導者育成を視野に入れた段階的な指導力養成支援システムの構築がなされた点があげられる。すなわち、実践知のはしごとしての意味を持つコーチングラダーによって、指導者の現在の臨床実践能力を確認し、次のレベルへの目標につなげていくことが可能となり、スポーツのコーチングに求められる暗黙知の習得および実践といった、指導現場で適用可能なシステムが提示された点である。

研究成果の概要(英文)：This study attempted to construct a step-by-step leadership development support system by positioning the steps according to the stages of coaching proficiency as a "coaching ladder" and checking the current clinical practice ability of the coach by means of the so-called ladder of practical knowledge. As a result of the research, a model of the coaching proficiency process was developed. In other words, the coaching ladder has three factors that influence the process of coaching proficiency: the formation of the instructor's viewpoint as an opportunity to form a reflective view of coaching, the formation of the instructor's ability to act as the construction and normalization of psychological relationships, and the acquisition of practical coaching knowledge as the reconstruction of practical knowledge with a meta-perspective. It is clear that the substance of practical knowledge is refined and enhanced through the stages of instructional proficiency.

研究分野：スポーツ科学

キーワード：コーチング スポーツ指導者 実践知 指導力養成

1. 研究開始当初の背景

日本におけるトップアスリートの育成および指導者養成に関する研究は、国際的な才能研究および実践という点において立ち遅れており、卓越した選手の継続的な育成や生涯に渡りスポーツと関わる志向性の育成の欠落、優れた指導者の不足、および日本独自の指導者育成理論の未成熟といった閉塞的状况を免れていない。その背景には、これまでスポーツの才能に関する研究・実践では、遺伝的素質や早期からの効率的な練習を通じたスキル獲得という関心で選手育成が捉えられることが多かった点があげられる。しかし才能の開花は多様な因子が相互に影響し合う極めて複雑な現象であり、快感情を伴う体験、基礎基本の徹底した習得、および技能の洗練化に向けた探索活動という熟達化段階に応じたスポーツ体験を構築する視点で捉えることが重要である (Côté, 2002; 北村, 2015; 北村ほか, 2017)。また指導者養成に関する研究・実践では、指導者に求められる知識・技術の効率的な習得という関心で研究が進められることが多く、選手の才能が開花する熟達化段階と連動した形で捉えられなかった点が問題としてあげられる (北村, 2015)。そこから、バーンアウトや怪我による早期離脱といった問題が生じている。2020年の東京オリンピック開催に向けた選手育成という点においても、実践能力を備えた指導者育成は危急の課題である。

2. 研究の目的

本研究は、これまでの才能開花と指導に関わる研究を最大限取り入れながら、以下の3つの目的を設定した。

- (1) 実践能力に応じた指導力の段階としてのコーチングラダーという新たな視点から選手の才能開発と指導者養成を体系的にまとめ直す。
- (2) 日本のジュニアからエキスパートに至るスポーツ選手の才能育成・指導者養成の構造化を試み実践的な提案をする。
- (3) スポーツの指導における実践知の習熟過程について、コーチングラダーの構造を基に指導熟達化モデルを構築する。

3. 研究の方法

まずスポーツ選手の熟達化過程について、関連書籍・文献を整理して理論的に精緻する。そこでは、「熟達化理論」(Ericsson, 1996) 他を参考にして、スポーツ選手の熟達化の理論的枠組みを構築する。その上で、トップアスリートへの質的調査を実施する。熟達化過程における指導体験の実態を捉えつつ、以降の調査の基盤を構築する。次に、エキスパート指導者の指導観・指導行動を対象とした質的調査を実施する。これら一連の調査による成果に基づき、コーチングラダーを構築し、プロトタイプを作成する。更に、プログラムの有効性・妥当性を検証し、指導現場に適用可能な指導者育成支援プログラムとして提言にまとめ発信する。

4. 研究成果

(1) 自身が日本代表として国際大会に出場した経験を持ち、更に指導者として日本国内のトップレベル選手の育成にあたっている指導者を複数名対象として実施した。調査の内容としては、対象指導者のジュニア時代からトップレベルに至る選手経験について遡及的にたどりながら、熟達過程の節目において指導を受けた体験についてインタビュー調査を実施した。更に、指導者としての立場から、指導者初期から現在に至る過程での指導体験を遡及的に辿りながら、指導観、指導行動、指導にかかわる暗黙知についてインタビュー調査を実施した。調査は1対1の深層的、自由回答のインタビューを半構造的に実施し、対象者の指導現場における実践知の獲得過程に焦点を当てて実施した。その結果、エキスパート指導者のもつ実践知は、知識、実践、展望の要素によって形成される点が推察された (Kitamura, 2018)。

(2) 指導者の指導熟達過程の考究に際し、ジュニアからトップに至る選手の熟達化過程に影響を及ぼす特徴的な指導行動の分析、ジュニアからトップに至る指導者のもつ実践知の分析、及び選手が捉える指導体験と指導者の意図する指導実践知の統合に関連するデータの分析を基に、コーチングラダーのモデル形成を試みた。その結果、指導者の成長段階に応じたステップとしてのコーチングラダーは、(1) 自身の内外の状況を把握する知る力、(2) 内省を通して行動を方向付けるやり抜く力、(3) 文脈の中で発展性を見出す見通す力、の3つの実践能力が関係しており、それぞれが相互に関連し合う形で構成される要素が存在する点が推察された (北村, 2018; Kitamura and Yin, 2019)。

(3) 3つの実践能力は、指導熟達段階において、レベル1：指導導入期、レベル2：指導専門、及びレベル3：指導発展期の3つの段階が見出される点が推察された (Kitamura and Yin, 2020)。

(4) 指導者の成長段階に応じたステップとしてのコーチングラダーの構造を再検討した結果【変

わり続けようとする意識】【指導の前提としての関係性構築】および【本質を追求する実践知の展開】の3つの要素によって示される熟達化過程への影響要因が看取され、それぞれの要素が相互に作用する中で指導者としての成長が促進されていく一連の過程が推察された(Kitamura and Yin, 2020)。

(5)指導者の成長段階に応じたステップとしてのコーチングラダーは、選手の視点から指導者の視点への拡散的な移行であり、省察性を伴う指導観の形成契機としての【指導者視点形成】、選手と指導者との心理的関係性の構築と常態化という意味を帯びた経験の共有と再文脈化としての【指導者作用力形成】、および変化し得る多様な文脈の中でメタな視点を有した言語化された実践知の再構成としての【指導実践知獲得】の3つの要素によって示される熟達化過程への影響要因が看取され、それぞれの要素が相互に作用する中で指導者としての成長が促進されていく一連の過程が推察された(図1)。更にこうした3つの実践能力は、レベル1：指導導入期、レベル2：指導専門期、及びレベル3：指導発展期の3つの指導熟達段階を経る中で洗練化され実践知の内実が高められていく点が明らかとなった(北村, 2020; Kitamura and Yin, 2020)。

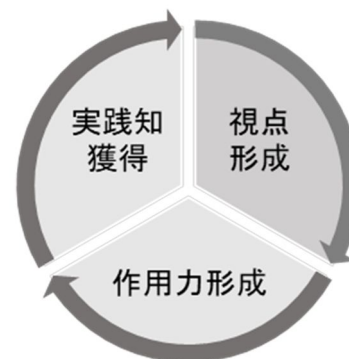


図1 コーチングラダー構成要素

(6)コーチングラダーを構成する、【指導者視点形成】、【指導者作用力形成】、および【指導実践知獲得】の3つの要素は、それぞれ指導者の熟達段階の中に意味をもって展開される構造が看取された。また、それぞれの要素が相互に作用する中で指導者としての成長が促進されていく一連の過程が推察された。こうした3つの実践能力は、指導者としての経験を重ねる時系列軸上に位置づけられ、指導熟達段階を経る中で洗練化され実践知の内実が高められていく点が明らかとなった(表1)(北村, 2020; Kitamura, Nagayama and Saito, 2020; Kitamura and Yin, 2020)。

表1 コーチングラダー

(7)エキスパート指導者は、指導経験の中で、より高度で複雑な課題に挑戦する学びの契機としての探求的な初心者(intelligent novices)化がなされている点が推察された。課題状況の変化に柔軟に対応する上では、既存の知識技能への固執ではなく、メタな視点を活用したより新しい知識技能の習得を目指す実践能力を能動的に再構成し続けていることが推察される(Kitamura, 2018; 2021)。

		熟達段階		
		レベル1 指導導入期	レベル2 指導専門期	レベル3 指導発展期
構成要素	視点形成	指導結果を省みる	選手の個性を見抜く	自身の役割を見極める
	作用力形成	選手との心理的距離を保つ	練習目的・根拠の徹底理解	学び合う相互作用の常態化
	実践知獲得	メタな視点での判断	指導の文脈化	更なる探索とより深い熟考

<引用文献>

北村勝朗 . 300人の達人研究からわかった上達の原則, CCCメディアハウス, 2015年, 1-190.
 北村勝朗 . エキスパート・ボート競技者指導者の実践知に焦点を当てたコーチング・メンタルモデルの質的分析. 日本体育学会 第67回大会 体育方法専門領域一般口頭発表. 2016年8月24日. 於: 大阪体育大学. 246.
 Katsuro Kitamura, 2018. Investigating the coaching ladder as a framework for understanding coaching expertise and learning. Proceedings of 2018 ASPASP (Asian South Pacific Association of Sport Psychology) Conference, 29, June-3 July, 2018. Academic Events IV-62
 北村勝朗 . スポーツ指導者の実践能力の質向上を目指すコーチング・ラダーの構築. 日本体育学会 第69回大会 2018年8月24日. 徳島大学. 発表抄録09方-24-口-16.
 Katsuro Kitamura and Dexia Yin. What makes coaching professional development

effective?: The coaching ladder as a four-phase model of coaching expertise. Proceedings of the 24th annual congress of the ECSS(European college of sport science). 3-6 July,2019, Prague, Czech Republic. Abstr.-ID: 794. p665.

Katsuro Kitamura and Dexia Yin. Factors Affecting Coaching Excellence: Qualitative Analysis of the Core Elements of Coaching Ladder. Proceedings of the 2nd International Conference on Research in Teaching and Education. March, 2020. Budapest, Hungary. Paper ID:R40-4040.

北村勝朗 . 優れた指導者に共通する熟達化の影響要因 : コーチングラダーを構成する要素の質的分析 . 2020 (令和 2) 年 3 月 17-18 日 . 日本コーチング学会 鹿屋体育大学 . 発表番号 : 0G1-1-5. (最優秀発表賞)

Katsuro Kitamura, Takahiro Nagayama, Shigeru Saito. Exploring learning strategies for creativity: A qualitative study of expert athletes unlearning experiences. 25th annual congress of the ECSS (European college of sport science). 28-30 October,2020, online. Abstract ID:438.

Katsuro Kitamura and Dexia Yin, Effect of STEAM education on physical education classes and student's creativity improvement, Proceedings of the AIESEP (International Association of Physical Education in Higher Education) International Scientific Conference, June 7-10 2021, Virtual Congress, On Demand Posters. Session-ID:299. 151

Katsuro Kitamura (2021) Coaching Ladder from a Graduated Hierarchical System for Developing Practical Coaching Ability. International Journal of Sport and Exercise Psychology Vol.19. No.S1, The 15th International Society of Sport Psychology 15th World Congress proceedings, pp397-398.

北村勝朗・佐々木万丈・西田保. スポーツ心理学からみた負けず嫌い , 児童心理 3 月号 . 金子書房 . 2017 年 3 月 . 54-58.

Katsuro Kitamura, Talent Development of STEM Experts. In Keith S. Tober, et.al.(Eds.) Teaching Gifted Learners in STEM Subjects, Routledge. Chapter 5: 65-79. 2018. 7.1.総ページ数 249 頁

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 16件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Katsuro Kitamura and Dexia Yin	4. 巻 1
2. 論文標題 Effect of STEAM education on physical education classes and student's creativity improvement	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Proceedings of the AIESEP (International Association of Physical Education in Higher Education) International Scientific Conference	6. 最初と最後の頁 151-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Katsuro Kitamura and Toshiro Izumi	4. 巻 1
2. 論文標題 A case study of the athlete - coach relationship between an expert junior coach and elite junior athlete	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Proceedings of the ECSS (European college of sport science) virtual Congress 2021	6. 最初と最後の頁 197-197
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Katsuro Kitamura, Takahiro Nagayama, Shigeru Saito.	4. 巻 1
2. 論文標題 Exploring Learning Strategies for creativity	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Proceedings of the 25th annual congress of the ECSS(European college of sport science)	6. 最初と最後の頁 429-429
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北村勝朗, 安住文子	4. 巻 109
2. 論文標題 文章完成法による大学生の健康観に関する質的分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本大学理工学部一般教育教室 『彙報』	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北村勝朗, 種ヶ嶋尚志	4. 巻 55
2. 論文標題 エキスパート・ジュニアサッカー指導者を対象としたdeliberate play (練習的要素を含む遊び体験)の認識に関する質的研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 桜門体育学研究	6. 最初と最後の頁 1~6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Katsuro Kitamura and Dexia Yin	4. 巻 1
2. 論文標題 Katsuro Kitamura and Dexia Yin. Factors Affecting Coaching Excellence: Qualitative Analysis of the Core Elements of Coaching Ladder	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Proceedings of the 2nd International Conference on Research in Teaching and Education	6. 最初と最後の頁 4040~4040
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北村勝朗, 種ヶ嶋尚志	4. 巻 107
2. 論文標題 大学運動部におけるチームビルディング・プログラムの実践的アプローチ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本大学理工学部一般教育教室 『彙報』	6. 最初と最後の頁 1~9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Katsuro Kitamura, Dexia Yin	4. 巻 1
2. 論文標題 What makes coaching professional development effective?: The coaching ladder as a four-phase model of coaching expertise	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of the 24th annual congress of the ECSS(European college of sport science)	6. 最初と最後の頁 665~665
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木万丈	4. 巻 41
2. 論文標題 ある意味無限にあるスポーツのストレス：さまざまな要素が絡み合う心理的側面	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Sport Japan	6. 最初と最後の頁 4~6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北村勝朗	4. 巻 105
2. 論文標題 スポーツチームにおける選手 - 指導者関係の構成要素に関する質的分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本大学理工学部一般教育教室 『彙報』	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 北村勝朗・高橋亮輔	4. 巻 104
2. 論文標題 科学とアートの融合教育 (STEAM) における大学教養体育科目の位置づけに関する質的分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本大学理工学部一般教育教室 『彙報』	6. 最初と最後の頁 11-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木万丈	4. 巻 66
2. 論文標題 体育心理学と学校体育をめぐる今日的課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 体育科教育	6. 最初と最後の頁 16-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北村勝朗, 佐々木万丈, 西田保	4. 巻 3月号
2. 論文標題 スポーツ心理学からみた負けず嫌い	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 児童心理	6. 最初と最後の頁 54-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木 万丈, 須甲 理生	4. 巻 61
2. 論文標題 体育授業に対する劣等コンプレックスの因子的概念と児童生徒の主体的要因との関連	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 体育学研究	6. 最初と最後の頁 663-680
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計22件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 9件)

1. 発表者名 Katsuro Kitamura and Dexia Yin
2. 発表標題 Effect of STEAM education on physical education classes and student ' s creativity improvement
3. 学会等名 AIESEP (International Association of Physical Education in Higher Education) International Scientific Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Katsuro Kitamura and Toshiro Izumi
2. 発表標題 A case study of the athlete - coach relationship between an expert junior coach and elite junior athlete
3. 学会等名 ECSS (European college of sport science) virtual Congress 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Katsuro Kitamura, Takahiro Nagayama, Shigeru Saito.
2. 発表標題 Exploring Learning Strategies for creativity
3. 学会等名 25th annual congress of the ECSS(European college of sport science) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 北村勝朗
2. 発表標題 優れた指導者に共通する熟達化の影響要因：コーチングラダーを構成する要素の質的分析
3. 学会等名 日本コーチング学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Katsuro Kitamura and Dexia Yin
2. 発表標題 Factors Affecting Coaching Excellence: Qualitative Analysis of the Core Elements of Coaching Ladder
3. 学会等名 2nd International Conference on Research in Teaching and Education (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Katsuro Kitamura and Dexia Yin
2. 発表標題 What makes coaching professional development effective?: The coaching ladder as a four-phase model of coaching expertise
3. 学会等名 24th annual congress of the ECSS(European college of sport science) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北村勝朗
2. 発表標題 メダリストが厳しい練習を継続できるのはなぜか？～動機づけを探る～
3. 学会等名 第16回スポーツ動機づけ研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Katsuro Kitamura
2. 発表標題 Impact of using digital pens on flipped learning in athletic activities of high school students
3. 学会等名 AIESEP (International Association of Physical Education in Higher Education) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Katsuro Kitamura
2. 発表標題 Investigating the Coaching Ladder as a Framework for Understanding Coaching Expertise and Learning
3. 学会等名 ASPASP (The Asian South-Pacific Association of Sport Psychology) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 北村勝朗
2. 発表標題 スポーツ指導者の実践能力の質向上を目指すコーチング・ラダーの構築
3. 学会等名 日本体育学会 第69回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 北村勝朗
2. 発表標題 大学体育教員としての成長段階と熟達化
3. 学会等名 第10回大学体育指導者養成講習会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北村勝朗
2. 発表標題 メダリストが厳しい練習を継続できるのはなぜか？～動機づけを探る～
3. 学会等名 第16回スポーツ動機づけ研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 北村勝朗・高橋亮輔・難波秀行・沖和磨
2. 発表標題 理工系大学生の学習観から捉える一般教育体育実技科目の位置づけ
3. 学会等名 日本体育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 北村勝朗・尹得霞
2. 発表標題 ものづくり企業における克服体験が企業人の職能成長に及ぼす影響
3. 学会等名 日本教師学学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 北村勝朗
2. 発表標題 熟達体験から捉える生涯現役社会の構築
3. 学会等名 日本発達心理学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 北村勝朗
2. 発表標題 エキスパート・ポート競技者指導者の実践知に焦点を当てたコーチング・メンタルモデルの質的分析
3. 学会等名 日本体育学会 第67回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 2. 北村勝朗・西田保
2. 発表標題 運動部活動の中で社会的一体感をどのように体験するのか：高等学校女子バスケットボール選手を対象とした質的分析
3. 学会等名 日本教育心理学会第58回総会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 日本コーチング学会編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 大修館書店	5. 総ページ数 327
3. 書名 球技のコーチング学 第3章第5節(分担執筆)	

1. 著者名 北村勝朗	4. 発行年 2019年
2. 出版社 大修館書店	5. 総ページ数 80
3. 書名 体育科教育11月号(分担執筆)	

1. 著者名 Katsuro Kitamura (In Keith S. Tober, et.al. Eds.)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 249
3. 書名 Talent Development of STEM Experts. In "Teaching Gifted Learners in STEM Subjects"	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	佐々木 万丈 (SASAKI Banjo) (40280333)	日本女子体育大学・体育学部・教授 (32671)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	永山 貴洋 (NAGAYAMA Takahiro) (20451502)	石巻専修大学・人間学部・准教授 (31308)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------